

令和6年度 清水町立清水中学校 学校だより

# 六華の教え

自立・共生・協力  
・挑戦・探求・創造



令和6年11月25日 第20号文責 校長 内田得裕

## コミュニケーション

いつの間にか紅葉が終わりを告げ、雪景色が普通と感じられる季節となりました。清水中学校から見える山々は常に顔を変え、日々私たちの心を癒やしてくれています。その景色の美しさは言葉では正しく伝えることが簡単ではありません。同じ景色を見たことがある人でも、自分の感動の全てを伝えるのは無理ではないかと思っています。それほど、人の心の動きを伝えるのは難しいことです。

人間関係を構築する手法として、エンカウンターというものがあります。その中に、教師の「言ったとおりの絵を描く」というのがあります。教師が「1軒の家」「1本の木」「鳥が飛んでいる」などと指示を出していき生徒が絵を描きますが、一つとして同じ絵はありません。「家」と言われてもそれぞれ思い描く形が違いますし、「鳥が飛ぶ」と言ってもその数や種類が違ってきます。それぞれの位置関係にも差が出ます。同じ言葉を受け取ってもその言葉に対する「概念」に違いがあれば、このように伝わった内容に差が出てきてしまいます。ですから、自分の言葉を正しく伝えようと思ったら、相手にも同じレベルで概念を受け止める「同じ受け皿（受容体：レセプター）」が必要というわけです。しかし、人によってこの受け皿に違いがあるため、「言ったけど伝わらない」というトラブルが発生しています。目に見える物を伝えるだけでも大変ですから、目に見えない感情などを伝えるのは至難の業と言えます。更に、受け手のその時の喜怒哀楽の状況の違いでも、伝わった情報に差が出てきてしまいます。

人に正しく物事を伝えたいときには、「同じ物を見る」「同じ物を聞く」など「同じ空間での経験」が必要です。その同じ経験が言葉の概念の受け皿となり、言葉が指し示す物を正しく理解することが出来ます。ですから、人との会話の積み重ね、行動をとともにする時間の長さが必要です。同じ景色でも、一緒に見た景色なのかバラバラに見た景色なのかで理解の度合いが違います。「時間と空間の共有」が大切です。

もう一つ、「顔と顔を合わす」大切さもあります。最近の科学の進歩は新たな通信手段を開発し、ずいぶん便利になりました。しかし、新たなトラブルを生み出しています。人と人とのコミュニケーションには、「表情」という情報も大切です。同じ言葉でも、発するときの表情の違いで意味が違ってくることがあります。ですから、会話を積み重ねるときに、顔をつきあわす「団らん」が理想的な形になります。大切な話しをするときには、必ず直接会って話すことが必要です。便利だからと言って SNS で済ますと、思いがけず違ったニュアンスで受け取られていることがあります。手間は掛かりますが、今も昔も足を使ってコミュニケーションすることを大切にしなければなりません。

私がお世話になった校長先生の教えに、「表情も学力」という言葉がありました。どのような表情で学習に望み、どのような表情で毎日の生活を送るのか。とても大切なことです。自分の表情を全面に出す時があれば、逆に表情を打ち消して無理矢理に笑顔を浮かべることも時には必要となります。ただ、辛いときでも笑顔を自ら造り出すことで気分が晴れていくことも間違いなくあります。コミュニケーションを図るときに相手に対してどのような表情で接することが大事なのか、今一度探ってみてください。「あなたはいつもニコニコしていて、私もよい気持ちになれる。」と言われたら幸せですね。

# 12月行事予定

5日 3年後期期末テスト  
 7・8日 スケート競技会  
 8日 全道新人バドミントン十勝予選  
 9日～授業参観週間  
 13日 授業参観日、PTA 交流会  
 18日 2年台湾交流  
 20日 大掃除  
 21日～北海道アイスホッケー大会  
 23日 二学期終業式  
 24日～1月14日 冬季休業

# 部活動等の記録

サッカー部がフットサル予選で6位となり道東大会に出場しました。残念ながら予選敗退となってしまいましたが、3試合とも大接戦で力を出し切りました。バドミントン部・卓球部は団体で十勝上位に食い込みました。苦しい試合の連続でしたが、みんなで力を合わせ最後まで諦めず戦いました。チームとして大きく成長しました。また、番匠華乃さんが十勝バレーボール優秀選に選出されました。おめでとうございます。



全十勝秋季柔道大会 10 / 13

大城海志 60 kg 級優勝

全十勝秋季卓球大会 10 / 26

団体 男子ベスト8、女子ベスト8

全十勝秋季バドミントン大会 10 / 26・27

団体 男子ベスト4、女子ベスト4、女子2部2位

男子ダブルス 富田夏楓・吉田昇太郎 7位

女子ダブルス 森井汐音・伊藤里彩 3位

安藤愛菜・三上琴音 ベスト16

アイスホッケー大会 10 / 26

全十勝A 2位

U15 フットサル十勝予選 10 / 26

予選 vs 西陵中 B 7-0、vs 新得中 1-2

決勝 vs 士幌中 3-1、vs 下音更中 0-1、vs プロGRESS B 2-1、vs 帯広 FC 1-2

U15 フットサル道東選手権大会 11 / 9

予選敗退 vs 北見光西中 3-3、vs プロGRESS 1-3、vs ESP 1-2



# 後期生徒会認証式・総会

10月23日に後期認証式を行いました。生徒会書記局・各委員会・学級の役員に認証書が渡されました。3年生から



1・2年生にバトンが引き継がれ、特に

2年生のやる気になっている顔がとってもたくましく見えました。生徒会・学級の代表として自覚を持ち、責任のある役職を全うしてくれることでしょう。生徒総会はきれいに進行し、いじめ撲滅宣言はかっこよくきまっていました。



## 生徒書記局

会長: 安藤愛菜 副会長: 大山侑夏・森莉唯菜 書記会計: 橋本明奈・池田希望

## 専門委員会委員長

生活委員長: 旭琴葉 学芸委員長: 山本沙彩 図書委員長: 富田夏楓 放送委員長: 勝田圭太

保健美化委員長: 森井汐音 体育委員長: 佐藤朱梨 選挙管理委員長: 澤村美綺

## 学級委員長

1A: 櫛田倅那 1B: 若原めい 2A: 高薄杏 2B: 玉井脩希 3A: 安藤壱吾 3B: 池尻空



# 十勝子ども大会

11月9・10日に十勝子ども大会が開催されました。今年は何年ぶりに演劇が復活し、清水文化センターにて鹿追中とともに演技を披露しました。清水文化センターでは照明等の素晴らしい設備の中で演劇を行い、清水中体育館よりさらに見



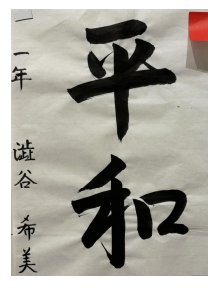
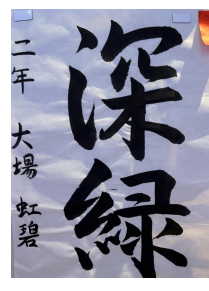
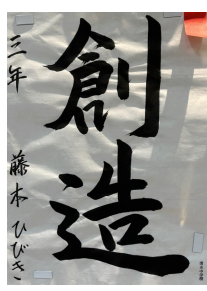
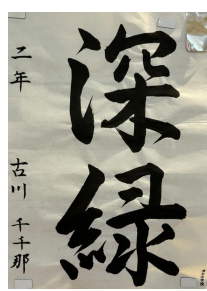
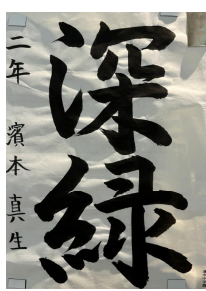
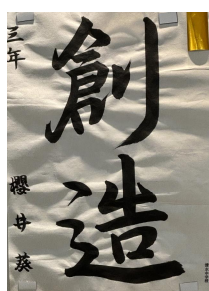
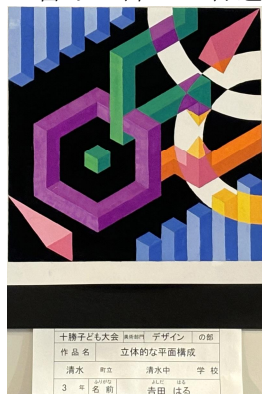
応えのあるものとなりました。また、意見発表には桐木結風さんが2年連続で出場し、堂々と爽やかに意見を述べてくれました。合唱には2・3年で出場し、幕別記念ホールに「第九」が響き渡りとても感動しました。

＜意見発表の部＞ 桐木結風：優良賞

＜演劇の部＞ 優秀賞、田中蘭：演技賞

＜美術の部＞ 入選：吉田はる・旭琴葉・成松龍我・遠藤湊人

＜書写の部＞ 特選：櫻井葵、秀作：濱本真生・古川千千那、佳作：藤本ひびき・大場虹碧・澁谷希美





# 国際交流JICA



JICA 研修生との交流を通して、異文化について理解を深めることを狙いとして、10月24日に9名のJICA研修生と職員3名に来校いただき、1年生が交流を行いました。1年生は各クラス4つのグループに分かれ、各国から来ている研修生とお互いの国のクイズや紹介を行い、コミュニケーションを図りました。自分で英語を使ったり、JICA職員や清水中教員に通訳してもらったり、時には身体を使って一生懸命伝える努力をしました。徐々に慣れていき笑顔がいっぱいの時間となりました。



## 3年総合

今年も、第3学年では総合的な学習の時間の「人権・福祉」と家庭科の「高齢者とのかかわり」という学習を教科横断的に進めています。

### 高齢者疑似体験・介助体験

10月29日(火)に、2時間ずつ特別養護老人ホームせせらぎ荘援助課長 猿橋雅昭さんと同じく援助課長 辻祐介さんを講師に迎えて実施しました。一つ目は「高齢者疑似体験セット」を装着し、サポーターや重りにより、関節が固まって動作しにくい状態で階段の上り下りを体験したり、視野が狭くなったサングラスをかけ、白内や緑内障の病気で視界が悪い体験をしたりしました。介助する側も優しく声を掛けており、高齢者の視点に立って、いつもの自分とは違う体の変化や介助者としてどう接すればよいかを理解する様子が見られました。



二つ目は「車いす介助体験」で、生徒玄関にあるスロープはもちろん、段差の上り下りを行ったり、1階のバリアフリートイレでの介助の仕方を体験したりしました。衝撃を和らげながら、スムーズに介助するためのテクニックや安全に介助することの大切さを介助する側、される側の両面から学びました。また、普段はなかなか目にすることのできないリクライニング式の車いすもご持参いただき、生徒は興味津々で車いすを利用していました。



11月8日(金) 2・3時間目に、社会福祉法人清水旭山学園障がい者支援施設清水旭山学園 鈴木康功さんを講師に迎えて実施をしました。この講座は、小学校6年生でも受講しており、その時とはまた違う内容での講話となりました。目の錯覚や体験活動を織り交ぜながら、認知症のメカニズムや症状を理解し、どのように当事者や家族の気持ちに寄り添って関わりをもてばよいのかを大変わかりやすく、涙あり、笑いありでお話していただきました。生徒の感想では、これまでの自分の知識を深めて「認知症」の捉え方を改めたり、「人間杖」の大切さにふれる感想が多く見られ、家族や高齢者を支える立場であることを今一度自覚したようでした。

### 認知症サポーター養成講座

11月12日(火)に、「認知症である家族が物取られ妄想により、他の家族が自分の財布を取ったと勘違いしている場合に、どのような対応をするとよいのか」を各班ロールプレイで発表しました。どの班も、家族みんなで財布を探す場面が見られ、前回の講話が生きたストーリーになっていました。中には、認知症の症状を理解しきれない中学生役を配役するなど、現実的な視点で演技する班もあり、自分事として受け止めている様子も見られました。この日も、社会福祉法人清水旭山学園障がい者支援施設清水旭山学園 鈴木康功さんをゲストティーチャーとして迎え、各班の演技について講評していただき、「物取られ妄想では、『あなたが一番私のことを見ていてくれる』と思う人を疑うことが多い」という専門的なお話に、生徒もより支える立場として理解を深めていました。



### 高齢者とのかかわり



11月12日(火)に、「認知症である家族が物取られ妄想により、他の家族が自分の財布を取ったと勘違いしている場合に、どのような対応をするとよいのか」を各班ロールプレイで発表しました。どの班も、家族みんなで財布を探す場面が見られ、前回の講話が生きたストーリーになっていました。中には、認知症の症状を理解しきれない中学生役を配役するなど、現実的な視点で演技する班もあり、自分事として受け止めている様子も見られました。この日も、社会福祉法人清水旭山学園障がい者支援施設清水旭山学園 鈴木康功さんをゲストティーチャーとして迎え、各班の演技について講評していただき、「物取られ妄想では、『あなたが一番私のことを見ていてくれる』と思う人を疑うことが多い」という専門的なお話に、生徒もより支える立場として理解を深めていました。